

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	80	実施時間数	80
担当教員	中 詩帆				
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム		
授業目的	あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師として患者を診察し治療可能かどうかの判断を行う際、正しく西洋医学的知識を持つことにより、患者の訴えや身体所見から病名を推測する事ができるようになる。 そのため、代表的な疾患についての疫学や病態、治療法を学習する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、臨床医学各論、第 2 版、医歯薬出版株式会社				

具体的な到達目標	
目標 1	西洋医学の疾患について成因、病態生理について説明できる
目標 2	西洋医学の疾患について西洋医学の観点において診断方法や治療方法について説明できる

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	90%		90%		
平常点		算出方法		算出方法	
出席点		算出方法		算出方法	
その他	10%	算出方法	10%	算出方法	小テスト
試験日	後日伝達		後日伝達		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の实務経験	往診、訪問マッサージ		
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		1 1 章の「A 脳血管疾患（a）」について内容の関連を理解し、説明することができる。	
2		1 1 章の「A 脳血管疾患（a～d）」について内容の関連を理解し、説明することができる。	
3		1 1 章の「B 感染性疾患（a～c）、C 脳・脊髄腫瘍（a）」について	
4		1 1 章の「C 脳・脊髄腫瘍（a～d）、D 基底核変性疾患（a～d）」について	
5		1 1 章の「D 基底核変性疾患（a～d）」について	
6		1 1 章の「E その他の変性疾患（a～c）」について	
7		1 1 章の「F 痙攣性疾患（a）、G 筋疾患（a～b）」について	
8		1 1 章の「H 運動ニューロン疾患（a～b）、I 末梢神経性疾患（a～d）」について	
9		1 1 章の「J 神経痛（a～d）、K 機能性疾患（a～d）」について	

10	11 章補足資料①
11	11 章補足資料②
12	11 章 問題演習
13	10 章の「A. 赤血球疾患(a. b. c)」について
14	10 章の「A. 赤血球疾患(d)、B. 白血球疾患(a)、C. リンパ網内系疾患(a)」
15	10 章の「D. 出血性素因(a. b)」について
16	10 章補足資料①
17	10 章補足資料解説②
18	10 章 問題演習
19	試験前復習 演習問題
20	試験解説
21	9 章の「C. 動脈疾患(a. b. c)」について
22	9 章の「A. 心臓疾患(a. b)」について
23	9 章の「A. 心臓疾患(b)」について
24	9 章の「A. 心臓疾患(b)」について
25	9 章の「A. 心臓疾患(b. c. d)」について
26	9 章の「B. 冠動脈疾患(a. b)、D. 血圧異常(a. b)」について
27	9 章補足資料①
28	9 章補足資料②
29	12 章の「A. リウマチ性疾患(a)、B. 膠原病(a)」について
30	12 章の「B. 膠原病(b. c. d. e. f. g)」について
31	13 章の「A. 小児科疾患(a. b) B一般外科」について
32	13 章の「C麻酔科 D. 婦人科疾患(a. b. c. d. e)」について
33	13 章の「E皮膚科疾患(a～d) F眼科疾患(a～f) G耳鼻咽喉科疾患(a～e)」について
34	第13章の「H精神科疾患(a～d)、I心療内科」について
35	第13章の「H精神科疾患(a～d)、I心療内科」について
36	試験前解説 演習問題
37	試験解説
38	13 章補足資料①
39	13 章補足資料②
40	13 章補足資料③ 問題演習

その他の事項

授業資料を配りますが、基本的に教科書を用いて授業を進めていきます。
資料は自己管理をお願いします。紛失時は各自コピー等に対応して下さい。

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	60	実施時間数	60
担当教員	黒木 裕士				
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム		
授業目的	リハビリテーション医学の全体を理解する。具体的には、リハビリテーション医学の歴史と現状、対象疾患、治療手段・方法等について学習し、各種疾患等の個別リハビリテーション対応を説明できることを授業目的とする。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、新版リハビリテーション医学、文光堂				

具体的な到達目標	
目標 1	リハビリテーション医学の理念・目的・語源・歴史について説明できる。 生活機能分類・リハビリテーションの分野について説明できる。
目標 2	リハビリテーション医療とチーム、地域リハビリテーションについて説明できる。
目標 3	リハビリテーションにおける診断・評価について説明できる。
目標 4	リハビリテーション治療学について説明できる。
目標 5	整形外科疾患のリハビリテーションについて説明できる。
目標 6	神経疾患のリハビリテーションについて説明できる。
目標 7	内部障害のリハビリテーションについて説明できる。
目標 8	高齢者に多くみられる疾患とそのリハビリテーションについて説明できる。
目標 9	小児疾患のリハビリテーションについて説明できる。
目標 10	がんのリハビリテーションについて説明できる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	1 0 0 %	1 0 0 %	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	後日伝達	後日伝達	

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☒	無 ☐	
教員の实務経験	理学療法士としての実務経験		
実務経験をいかした教育内容	リハビリテーションにおける臨床経験を有する教員が、その経験を生かしてリハビリテーション医学の歴史と現状、対象疾患、治療手段・方法等および各種疾患等の個別リハビリテーション対応について講義する。		

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		リハビリテーション医学・医療①理念・目的、語源・歴史	教科書 2-7 頁
2		リハビリテーション医学・医療②生活機能分類	教科書 7-12 頁
3		リハビリテーション医学・医療③リハビリテーションの分野	教科書 12-13 頁
4		リハビリテーション医学・医療④リハビリテーション医療	教科書 13-16 頁
5		リハビリテーション医学・医療⑤リハビリテーションチーム、地域リハビリテーション	教科書 16-24
6		診断・評価学①診断・評価とは、リハビリテーション診療の流れ	教科書 81-92
7		診断・評価学②検査・測定（総論、形態計測、関節可動域テスト）	教科書 92-105
8		診断・評価学③検査・測定（筋力評価、整形外科的検査法）	教科書 105-122
9		診断・評価学④検査・測定（神経学的検査法、ADL の評価、高次脳機能検査）	教科書 122-131
10		診断・評価学⑤検査・測定（運動発達評価、心理評価、摂食嚥下機能の評価）	教科書 131-136
11		診断・評価学⑥検査・測定（筋緊張・片麻痺機能の評価）	教科書 136-139
12		治療学①運動療法	教科書 140-149
13		治療学②物理療法	教科書 149-151
14		治療学③作業療法、言語聴覚療法	教科書 151-160
15		治療学④補装具、自助具・福祉用具	教科書 160-180
16		整形外科疾患①運動器疾患-上肢、下肢	教科書 182-216
17		整形外科疾患②運動器疾患-脊椎、脊髄損傷	教科書 216-231
18		整形外科疾患③脊髄損傷、切断	教科書 231-241
19		整形外科疾患④関節リウマチ・スポーツ傷害	教科書 241-249
20		神経疾患①脳血管障害-基礎知識	教科書 250-259
21		神経疾患②脳血管障害-リハビリテーション治療の要点	教科書 260-272
22		神経疾患③パーキンソン病	教科書 272-278
23		神経疾患④脊髄小脳変性症・多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、末梢神経障害、ポリオ	教科書 278-291
24		内部障害①虚血性疾患	教科書 292-298
25		内部障害②呼吸器疾患	教科書 299-304
26		内部障害③糖尿病	教科書 304-317
27		高齢者に多くみられる疾患①骨粗鬆症・廃用症候群	教科書 336-347
28		高齢者に多くみられる疾患②認知症	教科書 347-352
29		小児疾患①脳性麻痺、②筋ジストロフィー症・二分脊椎	教科書 353-361
30		がん	教科書 318-335
その他の事項			
教科書だけでなく、動画等を用いることがあります。対面授業の冒頭では、それまでの授業回での不明点等について質問時間を設けます。			

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	3 0	実施時間数	3 0
担当教員	松 尾				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	安心・安全な医療を提供・享受する上で「法」は必要不可欠な学問のひとつです。				
	この授業ではあはき法及び他の医事・社会福祉・社会保険・衛生法規の基礎を学び、それらの法規の関係性及び制定の主旨を理解することを目的とします。				
	「法」というと非常に堅苦しい印象を受けますが、みなさんの身近な例、これから相対するであろう事象を取り上げながら、この授業で学ぶ「法」に親しみを感じていただければと思います。				
教 科 書	関係法規 第7版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社				

具体的な到達目標	
目標1	あはき法制定の目的について説明することができる。
目標2	あはき法における免許・名簿に関する事項について説明することができる。
目標3	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の業務範囲について説明することができる。
目標4	施術所の要件や広告の制限について説明することができる。
目標5	あはき法に纏わる罰則について説明することができる。
目標6	各種医事法規・薬事法規について、その概要を説明することができる。
目標7	各種衛生関係法規・社会福祉関係法規・社会保険関係法規について、その概要を説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%		
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	後日伝達		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☒	無 ☐	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		あはき法①（法制定の目的、免許と試験①[免許制度の意義、免許の資格要件]）	
2		あはき法②（免許と試験②[免許に関する事務、施術者の身分]）	
3		あはき法③（業務①[業務の範囲、施術に関する注意]）	
4		あはき法④（業務②[施術所に関する規則、広告の制限]）	
5		あはき法⑤（業務③[医業類似行為]、学校・養成施設）	
6		あはき法⑥（罰則、その他）	
7		あはき法⑦（あはき法まとめ）	
8		関係法規①（医療法）	
9		関係法規②（各種医療従事者の根拠法）	
10		関係法規③（薬事法規）	
11		関係法規④（衛生関係法規）	
12		関係法規⑤（社会福祉関係法規①）	
13		関係法規⑥（社会福祉関係法規②、社会保険生関係法規①）	
14		関係法規⑦（社会保険生関係法規②）	
15		その他の関係法規	

その他の事項

特に前半部の「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」の内容は将来開業をする際に必要となる知識ですので、国家試験のみならず、卒業後のことも見据えて学んでください。

質問等があれば教員室または下記アドレスへお願いします。

担当者アドレス：s.matsuo@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	松 尾				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	本科目は、臨床現場で遭遇しやすい症候および疾患を対象に、現代医学的・東洋医学的観点からの病態把握および治療について学ぶものである。				
	1 年次に修得した人体の構造と機能、東洋医学の基本的概念、ならびに 2 年次に学修した疾病・疾患および各種診察法の知識を基盤として、これらを統合した横断的理解を深めることを目的とする。				
教 科 書	教科書執筆小委員会、新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）、南江堂、2 0 2 2 年				

具体的な到達目標	
目標 1	各種症候・疾患に対して、アマ指施術の適応の可否を判断することができる。
目標 2	各種症候・疾患に対して、現代医学的・東洋医学的の両側面から病態把握を行うことができる。
目標 3	各種症候・疾患に対して、現代医学的・東洋医学的の両側面から治療の方法を説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	後日伝達	後日伝達	

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☐	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容		
回数	内容	備考
1	授業概要・シラバス説明 第2章第1節 I. 概説	
2	第2章第1節 04. 関節痛	
3	第2章第1節 05. 頸肩腕痛	
4	第2章第1節 06. 上肢痛	
5	第2章第1節 07. 肩関節痛	
6	第2章第1節 08. 腰下肢痛	
7	第2章第1節 09. 腰痛	
8	第2章第1節 10. 下肢痛	
9	第2章第1節 11. 膝痛	
10	第2章第1節 02. 頭痛	
11	第2章第1節 03. 顔面痛 第2章第2節-3(脾) 07. 歯痛	
12	第2章第1節 12. 胸痛	
13	第2章第1節 13. 腹痛	
14	前期まとめ	
15	前期試験解説 第2章第2節-3(脾) 04. 悪心・嘔吐	
16	第2章第2節-3(脾) 05. 便秘、06. 下痢	
17	第2章第2節-1(肝) 01. 眼精疲労	
18	第2章第2節-1(肝) 02. 気分障害	
19	第2章第2節-1(肝) 03. めまい	
20	第2章第2節-5(腎) 02. 耳鳴り・難聴	
21	第2章第2節-5(腎) 01. 脱毛症	
22	第2章第2節-4(肺) 01. 咳嗽と喀痰	
23	第2章第2節-4(肺) 02. 呼吸困難	
24	第2章第2節-4(肺) 03. 鼻閉・鼻汁	
25	第2章第4節 01. 顔面麻痺	
26	第2章第5節 01. 概説、02. 月経異常、03. 性器出血	
27	第2章第5節 04. 帯下、05. 不妊症	
28	第2章第5節 06. つわり、07. 骨盤位、08. 乳汁分泌不全	
29	後期まとめ・総合演習①	
30	後期試験解説・総合演習②	
その他の事項		

前半は運動器系、後半は内科系について取り扱います。臨床医学総論や各論、東洋医学概論と関連する内容が多いので、必要があればそれらの教科書も持参してください。質問等があれば教員室または下記アドレスへお願いします。

担当者アドレス : s.matsuo@butsugen.or.jp

専 門 分 野（ 東洋医学臨床論Ⅱ ）シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2026 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	臼井 明宏				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	東洋医学臨床論は、治療各論を重点に展開する。臨床現場で遭遇する症候や疾患に対して、西洋・東洋医学の両面から診断、治療の適否について学習する。				
教 科 書	新版 東洋医学臨床論くはりきゅう編＞ 南江堂		新版 東洋医学概論 医道の日本社		
	東洋医学臨床論くあま指編＞ 医道の日本社		臨床医学各論 医歯薬出版社 など		

具体的な到達目標	
目標 1	症候の禁忌、適応の判断ができる。
目標 2	疾患、症候を東洋医学的、現代医学的の両面から病態把握ができる。
目標 3	疾患、症候に対するあま指の施術を説明できる。
目標 4	疾患、症候固有の症状、反応などを説明できる。
目標 5	疾患、症候に対する治療経穴の部位、支配神経、支配筋などが説明できる。
目標 6	腹診、脈診、痛みの分類から病態を判断ができる。
目標 7	国家試験問題を解き、解答に対する説明ができる。
目標 8	加齢に伴う病態について、説明できる。
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	1 0 0 %		1 0 0 %
平常点	算出方法		算出方法
出席点	算出方法		算出方法
その他	算出方法		算出方法
試験日			

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☒	無 ☐	
教員の实務経験	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業 4 年、他治療院 2 年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリ病院にて、3 年の研修経験あり。福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で 6 年間の実務経験あり。		
実務経験をいかした教育内容	臨床現場での経験、必要な事項についても教授しながら、また国家試験における出題傾向も交えて授業を展開する。		

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		第2章各論 第2節 2-2 心系統 I 動悸・息切れ	シラバス説明含む
2		第2章各論 第2節 2-2 心系統 II 血圧異常	
3		第2章各論 第2節 2-2 心系統 III 睡眠障害	
4		第2章各論 第2節 2-3 脾系統 I 食欲不振	
5		第2章各論 第2節 2-3 脾系統 II 肥満	
6		第2章各論 第2節 2-3 脾系統 III やせ(るい瘦) まとめ・問題演習(1～6回授業)	
7		第2章各論 第2節 2-5 腎系統 III 排尿障害①	
8		第2章各論 第2節 2-5 腎系統 III 排尿障害②	
9		第2章各論 第2節 2-5 腎系統 IV ED(勃起障害)	
10		第2章各論 第3節 I 疲労と倦怠	
11		第2章各論 第3節 II 発熱	
12		第2章各論 第3節 III 冷え IV のぼせ	
13		第2章各論 第3節 V 浮腫	
14		東洋医学臨床論総合 まとめ・問題演習(7～13回授業)	
15		各種検査・指標について	
16		第2章各論 第3節 VI 掻痒感・肌荒れ・発疹	
17		第2章各論 第4節 その他の症候 II 歩行異常	
18		第2章各論 第4節 その他の症候 III 口渇	
19		第2章各論 第4節 その他の症候 IV 出血傾向	
20		第2章各論 第6節 小児特有の症候①	
21		第2章各論 第6節 小児特有の症候②	
22		第2章各論 第7節 老年特有の症候①	
23		第2章各論 第7節 老年特有の症候②	
24		(臨各)加齢に伴う病態 a. フレイル b. サルコペニア、c. ロコモ	
25		(臨各)加齢に伴う病態 d. 治療 まとめ	
26		運動療法の病態と治療など(ストレッチング)	
27		東洋医学臨床論総合 まとめ・問題演習 第3節・第4節	
28		東洋医学臨床論総合 まとめ・問題演習 第6節・第7節	
29		東洋医学臨床論総合 問題演習(アマ指実技に特化した内容)	
30		東洋医学臨床論総合 関節拘縮について	

その他の事項

<授業の概要> 教科書および配布資料を用い、授業を行います。
 <教員から> 東洋医学臨床論は東西の異なる医学で学んできた内容を総合した科目です。両方の視点を持ち、診察から病態把握、施術が出来ることを目標とします。臨床医学各論、臨床医学総論、リハビリテーション概論、経絡経穴概論、東洋医学概論なども都度、復習のこと。
 <連絡先> usui@butsugen.or.jp

専 門 分 野

(あマ指理論) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2027 年度シラバス

授業概要

学 科 選 科 学 年 3 年 学 期 後期

単 位 1 必要時間数 20 実施時間数 20

担当教員 川口 隼子

授業形態 講 義 教 室 ホームルーム

授業目的 現代医療や福祉の環境が変化する中で、あマ指師の必要性は必須とされている。あマ指の理論と基本的な技術を正確に学習し、現代社会に踏み出したときに、患者に対して適応する施術ができて不利益を与えず、尊敬され慕われる医療人となるために学習する。

教 科 書 公益社団法人 東洋療法学校協会編 あん摩マッサージ指圧理論 第3版 医道の日本社 2016 年

具体的な到達目標

- 目標1 あマ指の発祥地、特徴について説明できる。
- 目標2 あマ指の手技の相違点について説明できる。
- 目標3 あマ指の作用、治療効果について説明できる。
- 目標4 古法あん摩の手技を現代の手技に置き換えて説明できる。
- 目標5 生体に対する機転について（体性神経、自律神経に対する作用）説明できる。
- 目標6 あマ指理論の学説に対して説明できる。
- 目標7 物理療法の特徴について説明できる。
- 目標8 あマ指の適応と禁忌について説明できる。
- 目標9 運動法の種類、特徴を判別できる。
- 目標10 あマ指が西洋医学にどのように応用されているかを説明できる。（看護、乳房、結組織マッサージ）

評価と試験

	前 期	後 期
試験成績	90%	90%
平常点	算出方法	算出方法
出席点	10% 算出方法 1 回欠席につき 2 % 遅刻、早退は 3 回で 2 %	算出方法
その他	算出方法	算出方法
試験日	月 日	

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験

実務経験 有 ☒ 無 ☐

教員の実務経験 鍼灸あん摩マッサージ指圧師の免許を有し、治療院を開業する。

実務経験
をいかした
教育内容

理論の手技を実際の施術に応用して対処できること。患者の主訴と施術範囲、手技の選択の適合ができること。
ヒヤリハットなどの対応について。

回数	日程	授業の内容	備考
		内容	
1		あん摩マッサージ指圧と東洋医学。東洋医学の健康観、経絡と経穴について	
2		古法あん摩と導引〈古法あん摩、あん摩手引き〉解説	
3		あま指理論教科書 40 頁までの復習。手技の問題集のプリント配布。	
4		古法あん摩、導引口訣鈔の読み下し。古法あん摩の手順。	
5		導引口訣鈔の読み下しと現代との比較と解説。	
6		あま指の現代に対しての有用〈医療、産業、スポーツ、乳房、美容、保健など〉	
7		あま指が生体に及ぼす作用についての復習、問題集のプリント配布。〉	
8		物理療法の一般。電気、光線、温熱、水治、運動法などの治療効果について	
9		あま指理論全般の復習とテスト範囲。	
10		テスト返却と解説。あま指の適応と禁忌について、	

その他の事項

教科書がメインとなるので線引きや重要ポイントの記入を忘れないこと。体調管理は自己責任なので仕事優先で休まないこと。
対面授業では動画撮影の復習として練習問題を出題していきます。

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	松浦英世				
授業形態	実 習	教 室	第 3 実技室		
授業目的	これまでに習った基礎医学やあん摩・マッサージ・指圧基本術式を応用し、各疾病を学び臨床に応用した治療法を学習する。 卒業後の開業した際に症状に合った治療法を学習する。				
教 科 書	スポーツマッサージ、テキスト配布				

具体的な到達目標	
目標 1	臨床実習に向けて全身の経絡経穴の触診、切経がおこなえるようにする
目標 2	体幹部の体表観察、触診を行い骨・筋を理解することができる。
目標 3	体幹部の骨筋を理解した上で障害部位に対し適切な治療をすることができる
目標 4	内科疾患に対する手技療法をすることができる。
目標 5	卒業後に向けてあま指の総合的な治療法を理解し開業に対する考え方ができるようになる

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	7 0 %		7 0 %		
平常点	算出方法		算出方法		
出席点	3 0 %	算出方法 欠席 2 点、遅刻 1 点減点	3 0 %	算出方法 欠席 2 点、遅刻 1 点減点	
その他	算出方法		算出方法		
試験日	後日伝達		後日伝達		

＊再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☒	無 ☐	
教員の実務経験	鍼師・灸師・按摩マッサージ指圧師の免許を有する。鍼灸治療院にて 50 数年の臨床経験あり。		
実務経験をいかした教育内容	臨床の現場において遭遇するあらゆる主訴に対する基本的な治療の方法を行う。		

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		膝前面⑰ 膝内外⑱ 膝関節の障害について説明。治療穴に対するマッサージ実技。 牽引性運動法含む。	
2		膝後面深部⑲ 膝後面深部の障害について説明。治療穴に対するマッサージ実技。	

3	大腿部前面⑳ 大腿部の障害について説明。治療穴に対するマッサージ実技。伸展法含む 大腿部後面㉑ 大腿部の障害について説明。治療穴に対するマッサージ実技。伸展法含む。
4	鼠径部股関節㉑ 股関節の障害について説明。治療穴に対するマッサージ実技。牽引性運動法含む。肩甲板3点実技。
5	胃疾患① 肋骨弓角の診方と食道・胃疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法
6	肝胆脾② 十二指腸周囲の疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法
7	大小腸③ 大小腸疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法
8	大小腸③ 虫垂炎・痔疾の局所穴と遠位穴に対する手技療法
9	泌尿器疾患④ 腎・膀胱疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法
10	婦人科疾患⑤ 月経と更年期疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法
11	反射穴に対する手技療法
12	伸展法実技（下肢編）
13	前期実技試験
14	背俞穴に対する全身編スポーツマッサージ実技（B 腰殿部・C 下肢後面）
15	呼吸器⑥ 風邪と気管支疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法
16	心臓⑦ 不整脈と動悸の局所穴と遠位穴に対する手技療法
17	頸肩背部（背俞穴）の全身編スポーツマッサージ実技（A 頸肩背部）
18	頭痛⑧ 頭部の診方と症状部位の局所穴と遠位穴に対する手技療法
19	神経症⑨ 頭部の触診と症状の局所穴と遠位穴に対する手技療法
20	眼科疾患⑩ 症状の局所穴と遠位穴に対する手技療法
21	耳疾患⑪ 耳鳴り・難聴・めまいの局所穴と遠位穴に対する手技療法
22	鼻疾患⑪ アレルギー鼻炎や嗅覚異常の局所穴と遠位穴に対する手技療法
23	顔面部⑫ 顎関節症・歯痛の局所穴と遠位穴に対する手技療法
24	伸展法実技（上肢編）
25	後期実技試験
26	美顔マッサージ実技 美顔の局所穴と遠位穴に対するマッサージ実技
27	乳房マッサージ実技 乳房に対する局所穴・遠位穴・反射穴のマッサージ実技
28	頭髮際刺針法 理論と実技
29	耳鍼法 理論と実技
30	診療白書 診察から治療まで

その他の事項

各疾患に対し、資料に基づいて実技を学び、その後学生同士ペアとなり実技を行う。

専 門 分 野 (マッサージ実技Ⅲ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2026 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	後 期
単 位 数	1	必要時間数	3 0	実施時間数	3 0
担当教員	臼井 明宏				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	これまでに習った医学的知識やマッサージの手技を応用し、オイルマッサージにて、腰痛、膝痛などの症候に対する施術を学習する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編 あん摩マッサージ指圧実技〈基礎編〉 医道の日本社				

具体的な到達目標	
目標 1	下肢前面・後面の体表観察、触診を行うことができる。
目標 2	下肢前面・後面へのオイルマッサージを行うことができる。
目標 3	背部へのオイルマッサージを行うことができる。
目標 4	下肢、腰部などの検査・評価等を行うことができる。
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績			8 0 %		
平常点	算出方法	課題など	2 0 %	算出方法	
出席点	算出方法			算出方法	
その他	算出方法			算出方法	
試験日					

＊再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業4年、他治療院2年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリ病院にて、3年の研修経験あり。福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で5年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	実際の症例を参考に、評価等を含め、教授を行う。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		下腿後面へのマッサージ(基本手技の確認：軽擦、圧迫、揉捏、鋸切揉捏、叩打法) オイルのパッチテスト	タルク使用
2		下肢後面へのマッサージ ① 足底 評価…足関節、足趾	以下、オイル使用
3		下肢後面へのマッサージ ② 下腿 評価…足関節、足趾	
4		下肢後面へのマッサージ ③ 足底・下腿・大腿 ※強擦法のレクチャー	
5		下肢後面へのマッサージ ④ 大腿・叩打法 評価…FFD、SLR 等	
6		下肢前面へのマッサージ ① 足背・下腿前面 評価…足関節、足趾	
7		下肢前面へのマッサージ ② 下腿前面・外側 評価…腸脛靭帯炎など	
8		下肢前面へのマッサージ ③ 足背～叩打法・運動法 ※強擦法のレクチャー	
9		腰背部へのマッサージ ① 全体の軽擦、半身への軽擦、揉捏など	
10		腰背部へのマッサージ ② 全体の軽擦～肩甲骨周囲、頸部	
11		腰背部へのマッサージ ③ 全体の軽擦～しあげ	
12		腰背部へのマッサージ ④ 全体の軽擦～しあげ 評価：頸部、腰部など	
13		腰背部へのマッサージ ⑤ 全体の軽擦～しあげ (時間計測し、時間内施術)	
14		期末試験	
15		試験フィードバック 下肢後面・前面、背部へのマッサージのまとめ	

その他の事項
●参考書籍・DVDなど 『エビデンスに基づく 疾患別クリニカルマッサージ』 大谷素明監訳 丸善出版株式会社 『改訂版 クリニカルマッサージ』 大谷素明監 医道の日本社 『分解写真で学ぶオイルマッサージ完全マニュアル』 長谷川尚哉著 出版：(株)ソクラーテクノス (kindle 版) 『マッサージスコアで学ぶオイルマッサージ』 長谷川尚哉著 出版：(株)ソクラーテクノス (DVD) ●平常点について 課題、実技チェックなどを行い、20%分の評価とします。

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	3 0	実施時間数	3 0
担当教員	松尾 卓、上田 恵介				
授業形態	実 習	教 室	第 3 実技室		
授業目的	指圧療法は、東洋医学の基本である「経穴」の流れを重視し、全身を的確に押圧する施術です。体のゆがみを整えるだけでなく、自律神経を介して内臓の働きを改善し、自然治癒力を高めることで病気の治癒に貢献します。 学習にあたっては、基本手技や理論の習得はもちろん、実際の病気への応用力を養います。痛みや麻痺といった運動神経に関わる治療に加え、内臓の反射（内臓体壁反射）を利用した自律神経疾患へのアプローチなど、臨床現場で役立つ実践的な技術を学びます。				
教 科 書	教科書は指定しない				
具体的な到達目標					
目標 1	各疾病に対してなぜこの経絡経穴を使用するのか説明できる。				
目標 2	治療部位の筋肉や神経の作用を説明できる。				
目標 3	施術する疾患に対しての適応と禁忌の判断ができる。				
目標 4	各疾患の治療部位にどのような手技を使用する必要があるのか説明できる。				
評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	7 0 %				
平常点	算出方法				算出方法
出席点	3 0 %	算出方法	1 回欠席ごとに 3 点。遅刻、早退は 1 回で 1 点の減点		算出方法
その他	算出方法				算出方法
試験日	後日伝達				
★再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。					
担当教員の実務経験					
実務経験	有	☒	無	☐	
教員の実務経験					
実務経験をいかした教育内容	実際の臨床における患者対応や頻度の高い疾患・症状へのアプローチの方法などを盛り込みながら指導を行う。				
授業の内容					
回数	日程	内 容			備 考
1		伏臥位操作の復習			松尾 1
2		側臥位操作の復習・坐位操作の復習			松尾 2
3		腰下肢痛に対する指圧			上田 1
4		神経疾患に対する指圧①			松尾 3
5		神経疾患に対する指圧②（杖、車いすの操作）			松尾 4
6		肩関節痛に対する指圧			上田 2
7		呼吸器疾患に対する指圧			松尾 5

8		耳鳴りに対する指圧	上田 3
9		姿勢不良に対する指圧	松尾 6
10		訪問現場などでの指圧（床）	上田 4 ※2実
11		ストレッチングを用いたアプローチ①	松尾 7
12		ストレッチングを用いたアプローチ②	松尾 8
13		食欲不振に対する指圧	上田 5
14		総復習	松尾 9
15		前期末試験	松尾・上田

その他の事項

内容・日程や担当者は前後する可能性がありますので、予め了承ください。

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	1 3 5	実施時間数	1 3 6
担当教員	川口/松尾/臼井/上田/佐藤				
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室		
授業目的	臨床に出て適切に対処できる最低限の知識、技術を身につける。				
	施術者としての自覚を持ち、安全性を十分に考慮した上で施術ができるようになる。				
	「東洋医学的」、「現代医学的」両面から収集した情報をもとに適切な対処ができる。				
	授業で学んだ検査や四診を活用し、患者の病態を把握できるようになる。				
教 科 書	臨床実習の手引き				

具体的な到達目標					
目標 1	施術者としての自覚を持ち、臨床実習に相応しい身だしなみ、態度で積極的に参加することができる。				
目標 2	患者の「受入れ・医療面接・触診（切診）・検査法・病態把握・施術方針の決定・施術・評価」の流れをスムーズに行うことができる。				
目標 3	安全かつ適切な対処や施術ができる。				
目標 4	「東洋医学的」「現代医学的」な病態把握に基づく施術ができる。				
評価と試験					
前 期			後 期		
平常点	算出方法	後期に準ずる	41 点	算出方法	その他の事項に記載
出席点	算出方法	後期に準ずる	59 点	算出方法	その他の事項に記載
その他	算出方法		0 点	算出方法	
試験日					

担当教員の実務経験					
実務経験	有	☒	無	☐	
教員の实務経験	〔川口〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。自宅で開業。 〔臼井〕 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業 4 年、他治療院 2 年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリ病院にて、3 年の研修経験あり。福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で 6 年間の実務経験あり。 〔松尾〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸あま指整骨院にて 2 年間の臨床経験あり。本校附属治療所で 1 3 年間の実務経験あり。 〔上田〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。あはき施術管理者。教員養成科附属治療院にて 2 年、鍼灸あま指治療院にて 2 年間、往診専門で開業 9 年、本校附属治療所で 1 1 年間の実務経験あり。 〔佐藤〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において 7 年間の臨床経験あり。本校附属治療所で 1 5 年間の実務経験あり。				

実務経験をいかした教育内容		(あん摩マッサージ指圧) あん摩マッサージ指圧における基本手技を必要に応じて病態に適した施術ができるように教育する。
授業の内容		
回数	内容	備考
1～68	来所患者に対し、教員管理のもと施術を行う。	
その他の事項		
<出席点>59 点 ・総授業数の 3/4 以上の出席をもって 59 点とする。出席が 3/4 に満たない場合、加点はしない。 <平常点>41 点 ※ポートフォリオを提出しなければ点数はありません。 【加点方式】 ・ポートフォリオの提出（4 月～12 月 計8回） ・月初めに掲げたパーソナルポートフォリオ、テーマポートフォリオを作成し、その成果を纏めたものを月末に提出する。 ・評価は、優（5 点）、良（3 点）、可（1 点）の 3 段階とする。 ・年間を通じて 8 回実施する。提出が 1 度もされなかった場合、臨床実習Ⅱの平常点は 0 点となり、単位未習得になるため注意 ・8 回すべて提出した場合、ポートフォリオの評価とは別に加点 1 点とする。 【減点方式】 下限 40 点 ・日々の臨床実習に臨む姿勢（身だしなみ、道具の忘れ、授業態度など） ・「欠席届（欠課・遅刻）」の提出（当日欠課の場合、事前の電話連絡の有無など） ・令和 8 年 7 月～9 月の欠課、令和 9 年 1 月以降の欠課、前出以外の期末試験前日及び当日の欠課 【臨床実習でのマッサージ、指圧の扱い】 マッサージは患者の病態に応じて必要な場合、教員の指示のもと実施することが可 指圧は指圧審査にて合格したものが基本手技のみ可		

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	3 0 時間	実施時間数	3 0 時間
担当教員	臼井/松尾/上田/佐藤				
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室		
授業目的	施術者としての自覚を持ち、安全性を十分に考慮した上で施術ができるようになる。 临床上よく遭遇する運動器疾患を主とし、授業で学んだ知識を統合し患者の病態把握ができ、病態に適するあん摩・マ ッサージ・指圧での治療方法を選択し、実践できるようになる。				
教 科 書					

具体的な到達目標	
目標 1	医療人として相応しい整容ができる。(身だしなみルールに準じている)
目標 2	安全性を十分に考慮した施術ができる。
目標 3	頸肩腕部、腰部、股関節、膝関節の症状に対する検査法を選択し実施することができる。
目標 4	検査法による病態の鑑別ができ、治療方針をたてることができる。
目標 5	治療方針に従い、あん摩・マッサージ・指圧施術ができる。
目標 6	病態に適したあん摩・指圧・マッサージ施術を行うことができる。
目標 7	安全かつ不快な刺激とならないような施術ができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	60%	算出方法	
平常点	—	算出方法	算出方法
出席点	40%	算出方法	その他の事項に記載 算出方法
その他		算出方法	算出方法
試験日	卒業認定実技審査 (あま指) I 部 11/5 ※現時点では予定です。 II 部 11/10		

※再試験、最終再試験にて合格の場合、評価点は 60 となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	〔臼井〕あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業 4 年、他治療院 2 年の勤務経験あり。 脳血管障害等のリハビリ病院にて、3 年の研修経験あり。福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で 6 年間の実務経験あり。 〔松尾〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸あま指整骨院にて 2 年間の臨床経験あり。本校附属治療所で 1 3 年間の実務経験あり。 〔上田〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。あはき施術管理者。教員養成科附属治療院にて 2 年、鍼灸あま指治療院にて 2 年間、往診専門で開業 9 年、本校附属治療所で 1 1 年間の実務経験あり。 〔佐藤〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において 7 年間の臨床経験あり。本校附属治療所で 1 5 年間の実務経験あり。

**実務経験
をいかした
教育内容**

本授業は、専任教員の東洋医学・西洋医学それぞれの現場での多様な実務経験から、あはき師の臨床上必要なコミュニケーションを含めた技術を教授する。

授業の内容

回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス	
2		頸肩腕症状に対する検査法およびあん摩・マッサージ・指圧治療の実践	
3		頸肩腕症状に対する検査法およびあん摩・マッサージ・指圧治療の実践	
4		肩関節症状に対する検査法およびあん摩・マッサージ・指圧治療の実践	
5		肩関節症状に対する検査法およびあん摩・マッサージ・指圧治療の実践	
6		肘関節・前腕の症状に対する検査法およびあん摩・マッサージ・指圧治療の実践	
7		肘関節・前腕の症状に対する検査法およびあん摩・マッサージ・指圧治療の実践	
8		腰部症状に対する検査法およびあん摩・指圧治療の実践	
9		腰部症状に対する検査法およびあん摩・指圧治療の実践	
10		殿部・股関節症状に対する検査法およびあん摩・マッサージ・指圧治療の実践	
11		殿部・股関節症状に対する検査法およびあん摩・マッサージ・指圧治療の実践	
12		膝関節・下肢症状に対する検査法およびあん摩・マッサージ・指圧治療の実践	
13		膝関節・下肢症状に対する検査法およびあん摩・マッサージ・指圧治療の実践	
14		総復習	
15		総復習	

その他の事項

<出席点>40 点

欠課 2 回目まで各 10 点の減点。3 回目は 20 点の減点。